

協働事業計画書

①団体名	認定特定非営利活動法人ハーモニーネット未来		
②テーマ区分	指定テーマ ()		自由テーマ
	該当するものを○で囲み指定テーマの場合は番号を記入してください。		
③事業名	食のセーフティーネット事業 IN かさおか	④これまでの採択回数	0 回
⑤現状及び課題	現在、日本では、まだ安全に食べることができる食品が年間632万トンも廃棄されている。一方、日々の食事にも事欠く人が2,000万人もいるといわれている。企業の食品ロスや家庭からの食品の提供(フードドライブ)等、食品と人をつなぐ「フードバンク活動」を周知するとともに、必要とする人に食品が届く仕組みづくりは急務の課題である。		
⑥事業目的	十分に食べられる食品について有効に活用されることにより、食品ロスの削減を図るとともに、食品の支援を必要としている人々と食品をつなぐ架け橋として、本事業においてより良い循環の構築を行うことにより、助け合い社会の実現をめざす。 また、継続的な事業とするために、NPO法人フードバンク岡山と連携して財源確保等の基盤整備を行う。		
【継続事業のみ】 ⑦昨年度までの主な実績・成果			

⑧事業内容

- フードバンク・フードドライブ活動の啓発・周知・拡充
活動を啓発・周知することで、提供側（企業等）と、受入れ側（行政・地域の支援団体・貧困家庭等）の広域的なネットワークを構築し、「食品」と「必要としている人」を結び、「食品ロス削減・廃棄物処理コスト削減」をめざす。
- 廃棄することなく活用することは、個人や企業においても捨てる罪悪感やモチベーションの軽減にもつながり、「食品ロス&廃棄物処理コスト削減」ができる本事業は、企業にとっても行政にとっても重要な活動となる。
- フードバンク（ハローズモデル・「子ども食堂」支援モデル等）・フードドライブ等を活用し、「日ようびの昼ごはん（子ども食堂）・シングル支援交流会等、子どもから高齢者までの「食を通じた多世代の居場所」を開設することにより、「食のセーフティーネット」をめざす。また、この取り組みをモデルに、公民館、まちづくり協議会等の地域活動に広げていく機会とする。
- フードバンク・フードドライブ活動を啓発・周知するために「シンポジウム」を開催する。
（案） 基調講演講師：井出留美さん（食品ロス問題専門家）
シンポジウム：太田光一さん（株式会社ハローズ）
：糸山智恵さん（NPO法人フードバンク岡山）
：生活協同組合おかやまコープ
：順正学園
：行政
：受け入れ登録団体
：支援団体 等
- NPO法人フードバンク岡山と連携し、広報用リーフレット、基盤整備用リーフレット作成配布、またフードドライブ受け入れ周知のための「のぼり」を作成、受け入れ登録団体に設置する。
※基盤整備用リーフレット（案）：
 - ・企業における廃棄物削減による廃棄経費削減の循環を構築し、「フードバンク・フードドライブ活動」への支援活動呼びかけ 等
 - ・「フードバンク・フードドライブ活動」の重要性が共有され、賛助会員等の仕組みをつくり、継続的な支援活動の呼びかけ 等
- 近隣食品関係企業等に、本事業を周知するとともに目的の共有、食品提供の実態・動向をアンケート調査する。
※アンケート調査協力：株式会社廃棄物工学研究所
- 行政等と連携し、「笠岡市環境フェスティバル」で広報用リーフレットを配布及びフードドライブ食品を集めるブースを開設する。
- 食品を安全に管理するために必要な冷凍庫・冷蔵庫等をレンタルし設置する。
- 食品管理・食品マッチング・アンケート調査実施・回収等、本事業を推進するためのアルバイトを雇用する。

⑨事業実施に関連する活動実績・アピールポイント

企業、行政、支援団体等と連携し、食品ロス・廃棄物処理コストを削減し、生活困窮者支援、子ども食堂等「食を通じたセーフティーネット」に向けた取り組みを拡大することで、「助け合い社会」「循環型社会」の実現をめざす。また、需給マッチング機能を充実、拡大させ、食品の安全管理機能を充実させることで食品の効率的な受け渡しの実現をめざす。

<p>⑩想定される 役割分担</p>	<p>【団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■事業の実施 <p>【県民局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■広報活動、シンポジウム集客・アンケート調査協力 等 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■笠岡市環境課：食品ロス削減・環境フェスティバル開催・広報活動 等 ■笠岡市地域福祉課・子育て支援課：受取り先紹介等ネットワーク充実 ■企業：食品提供事業者ネットワーク構築 ■社協及び支援団体：受取り先紹介等ネットワーク構築 <p>【理由・期待できる相乗効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■行政・企業・社会福祉協議会・NPO法人等がネットワークを構築することで食品等の効率的な受け渡しを実現し、「食品ロス・廃棄物処理コスト」を削減し、食品を必要としている人へつなぐ機能が充実する。 ■「子ども食堂」等が地域活動に広がることで、地域住民の生きがいにつながる機会となる。
<p>⑪今年度の 事業目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■「フードバンク・フードドライブ活動」の啓発・周知 ■企業、行政、支援団体等と連携し、「食を通じたセーフティーネット」を構築及び「食品ロス&廃棄物処理コスト」削減 ■受取り先等ネットワークの充実・食品提供事業者ネットワーク構築 ■近隣食品関係企業のアンケート調査を実施 ■食品の安全管理機能を充実 ■広報用リーフレット、基盤整備用リースレット・フードドライブ受け入れ先「のぼり」作成配布
<p>⑫期待される 成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■企業、行政、支援団体等と連携し、食品を生活困窮者・子ども食堂等必要としている人との需給マッチング機能を充実、拡大させ「食を通じたセーフティーネット」を構築し、またこの活動をモデルに地域活動に広がることで「助け合い社会」「循環型社会」が実現するとともに「食品ロス&廃棄物処理コスト」の削減につながる。 ■廃棄することなく活用することは、個人も企業においても捨てる罪悪感やモチベーションの軽減にもつながり、「食品ロス&廃棄物処理コスト」が削減できる本事業は、企業にとっても行政にとっても重要な活動となるとともに、食品を扱う企業等にアンケート調査を実施することで目的を共有し活動を広げていく機会となる。 ■シンポジウム開催、広報用リーフレットを配布することで、多くの人に「フードバンク・フードドライブ活動」が啓発・周知できる。 ■近隣食品関係企業等に食品提供におけるアンケート調査を行うことで、フードバンク活動の周知にもつながり、食品提供における実態、動向がわかる。 ■食品の安全管理機能を充実させることで、食品の効率的な受け渡しが実現する。

<p>⑬翌年度以降の事業展開の予定</p>	<p>■「フードバンク・フードドライブ活動」が広がり、行政・企業・各種団体・住民等に目的が共有できることで継続的な支援体制の構築につながり、本事業が充実した事業実施となる。</p> <p>■世界的な食品ロス削減の動きを先取りするような本事業を、行政・企業・支援団体・NPO法人・住民等と連携し充実、拡大をめざした事業を実施する。</p>
<p>⑭事業採択されなかった場合の予定</p>	<p>■現在の活動の継続。</p>

<記入上の注意事項>

- 1 それぞれの項目についてはできるだけ具体的に記入してください。
- 2 「⑧事業内容」欄は、それぞれの活動の事業目標達成のための意味・位置づけとともに対象者、実施地域、実施方法なども記入してください。
- 3 「⑩県民局との想定される役割分担」欄は、提案団体が果たそうとする役割と備中県民局に期待する役割をそれぞれ具体的に記入してください。
- 4 様式に書ききれない場合は、別紙を添付してください。